

平成 18 年 10 月 6 日

学会員各位

日本バイオセーフティ学会
理事長 倉田 毅

学会からのお知らせ

すでにご案内のように、第 6 回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会を平成 18 年 11 月 24 日(金) 25 日(土)に渡邊治雄学会長(国立感染症研究所)のもと、東京にて開催いたします。プログラムを発送しますのでご確認下さい。多数の会員の参加をお願いいたします。尚、郵便払込票(参加費)、出欠連絡用 F A X 送信票を同封しますのでよろしくをお願いいたします。

今回は学会会期中の 24 日午後、国立感染症研究所主催、日本バイオセーフティ学会、日本ウイルス学会、日本細菌学会、新興・再興感染症研究事業「病原微生物の取扱いにおけるバイオセーフティの強化及びバイオセキュリティシステムの構築に関する研究(主任研究者 杉山 和良)」共催のバイオセーフティ国際シンポジウム「アジアパシフィックにおけるバイオセーフティ」を同じ会場で実施いたします。米国の ABSA 会長、A-PBA 会長、WHO ウェスタンパシフィック事務所からの講演等があります。

広く会員外にも情報提供の場といたします。

国際シンポジウムには英語 - 日本語の同時通訳を用意

また、前回のお知らせでご案内しました輸送トレーニングコースにつきましても新興・再興感染症研究事業「病原微生物の取扱いにおけるバイオセーフティの強化及びバイオセキュリティシステムの構築に関する研究」主催、日本バイオセーフティ学会共催で「国際航空危険物輸送のルールと発送作業の実習」を行うこととなりました。多数の会員の参加をお願いいたします。

送付内容：

- 1 . 郵便払込票 (参加費)
- 2 . 出欠連絡用 F A X 送信票

第6回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会案内

第6回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会を下記により開催いたします。

会期：平成18年11月24日(金)、25日(土)

会場：明治製菓講堂 地下1階

(東京都中央区京橋2-4-16)

受付：講堂前 11月24日9時から、11月25日8時50分から

参加費：会員 10,000円 非会員 12,000円(講演抄録集代を含む)

会費は郵便による事前振り込みにて行います。

非会員は当日受付にてお支払いください。

全ての会員に講演抄録集を配布いたします。別に、講演抄録集をご希望の場合は2,000円にて配布いたします。

集会形式：

1. 日本バイオセーフティ学会として取り組むテーマ毎にセッションを設け講演会を行います。
2. 会員からの演題募集による一般演題は2日目に口演にて発表を行います。

懇親会：11月24日 17時45分～19時45分

会場は未定(学会場の近くを予定)

会費 6,000円予定

(懇親会費は当日学会受付にて)

第6回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会プログラム

1日目 11月24日(金)

受付 9:00より開始

開会挨拶 [9:25~ 9:30] 学会長 国立感染症研究所 渡邊 治雄

セッション1 安全管理 [9:30~ 11:30] 座長 倉田 毅

- | | | |
|----------------------------|---------|-------|
| 1) 感染症法の改正 病原体の使用・保管等に関して | 厚生労働省 | |
| 2) 結核予防法が感染症法に統合されることによる変化 | 結核感染症課 | 三木 朗 |
| 3) 地方衛生研究所におけるバイオセーフティの現状 | 山形衛生研究所 | 阿彦 忠之 |
| | 堺市衛生研究所 | 田中 智之 |

総会 [11:30~ 12:15]

バイオセーフティ国際シンポジウム [13:30~ 17:00]

「アジアパシフィックにおけるバイオセーフティ」

主催：国立感染症研究所

共催：日本バイオセーフティ学会、日本ウイルス学会、
日本細菌学会、厚生労働省 新興・再興感染症研究事業

懇親会 [17:45~ 19:45]

2日目 11月25日(土)

受付 8:50より開始

トピックス [9:15~ 10:00]

座長 山西 弘一

高病原性鳥インフルエンザ

「鳥インフルエンザと新型インフルエンザ大流行への危機対応」
国立感染症研究所

田代 真人

休憩 10分

特別セッション バイオセーフティの観点から見た病原細菌

[10:10~ 12:20]

座長 渡邊 治雄

- 1) 炭疽菌
- 2) ペスト
- 3) 野兔病
- 4) ボツリヌス菌毒素

帯広畜産大学
国立感染症研究所
国立感染症研究所
大阪府立大学大学院

牧野 壮一
高橋 英之
藤田 修
小崎 俊司

昼食 [12:20~ 13:10]

セッション 2 一般演題〔口演〕 [13:10~ 14:10]

座長 安藤秀二、吉田一也、小暮一俊

- 1) 地方衛生研究所におけるバイオセーフティ
研修の試み
- 2) BSC 前面流入風速の測定における信頼性の考察
- 3) バイオハザード対策用防護服素材の人工
血液浸透性防護性能試験についての検討

北海道立衛生研究所
日本エアーテック(株)
アゼアス株式会社

伊木 繁雄
高木 顕二
熊谷 慎介

セッション 3 病院・検査室バイオセーフティ [14:30~ 17:30]

「検査室のその後の対応と改善に向けての対策」

座長 長沢 光章 相楽 裕子 北林 厚生

- 1) 日本臨床微生物学会および関連学会の取り組み
- 2) 結核感染に対する検査室の安全対策
- 3) 感染除去改正が検査室に及ぼす影響
- 4) 15190 臨床検査室 安全に対する要求事項
- 5) 臨床検査室でのBSL3 施設計画

岐阜大学 医学部
結核菌検査コンサルタント
獨協医科大学病院
(株)ミロクメディカルラボラトリー
日立アプライアンス(株)
(株)ヤシマ・エコ・システム

江崎 孝行
阿部 千代治
奥住 捷子
柳沢 英二
大久保 孝雄
北林 厚生

バイオセーフティ国際シンポジウム

アジアパシフィックにおけるバイオセーフティ

主 催：国立感染症研究所

共 催：日本バイオセーフティ学会、日本ウイルス学会、日本細菌学会
新興・再興感染症研究事業「病原微生物の取扱いにおけるバイオセーフティの強化及びバイオセキュリティシステムの構築に関する研究(杉山和良)」

日 時：2006年11月24日 13:30 - 17:00

場 所：明治製菓講堂 東京（中央区京橋）

参加費：無料

プログラム（案）

- 13:30 - 13:40 開会挨拶 (NIID副所長) 渡邊治雄
- 13:40 - 13:55 日本のバイオセーフティの状況 (JBSA 理事長) 倉田 毅
- 13:55 - 14:10 ABSA の活動 (ABSA 会長) Dr. Glenn Funk
- 14:10 - 14:25 アジアパシフィックバイオセーフティ学会 (A-PBA) の活動
(A-PBA 会長) Dr. Ai Ee Ling
- 14:25 - 14:40 台湾のバイオセーフティの状況
(台湾CDC 部長) Dr Ho-Shen Wu
- 14:40 - 14:55 韓国のバイオセーフティの状況
(KCDC 副所長) Dr. Hae Wol Cho
- 14:55 - 15:10 WPRO のバイオセーフティの取組み
(WPRO メディカルオフィサー) Dr. Isabelle Bergeri
- 15:10 - 15:30 休憩
- 15:30 - 16:15 バイオセーフティ実践におけるリスク評価の考え(演習を含む)
(ABSA 会長) Dr. Glenn Funk
- 16:15 - 16:55 感染性の高い病原体の現場での検体採取と初期検査
(ABSA バイオセキュリティタスクフォース長) Dr. Barbara Johnson
- 16:55 - 17:00 閉会挨拶 (NIID所長) 宮村達男

第1回病原体輸送トレーニングコース

「国際航空危険物輸送のルールと発送作業の実習」

主催：新興・再興感染症研究事業

「病原微生物の取扱いにおけるバイオセーフティの強化及び

バイオセキュリティシステムの構築に関する研究」主任研究者 杉山 和良

共催：日本バイオセーフティ学会

日時：2006年11月23日(木) 13:00 - 17:00

場所：国立感染症研究所 共用第1会議室

プログラム

13:00 - 13:20	ガイダンス
13:20 - 13:40	危険物輸送総論 講義
13:40 - 15:00	航空危険物輸送 講義 丸尾 進 (航空危険物安全輸送協会)
15:00 - 15:15	休憩
15:15 - 15:55	輸送容器と梱包法 実習
15:55 - 16:15	危険物申告書の書き方 実習 市村哲也 (ワールド・クウリアー)
16:20 - 17:00	まとめ、質疑
展示 :	輸送容器 亀井 範雄 (家田貿易)

病原体輸送トレーニングコース

主催：新興・再興感染症研究事業

「病原微生物の取扱いにおけるバイオセーフティの強化及びバイオセキュリティシステムの構築に関する研究」
主任研究者 杉山 和良

共催：日本バイオセーフティ学会

目的：感染性材料の輸送に関しては国連が中心となり定めている国際規則がある。本規則を理解し、国際航空輸送を正しく行うために梱包法、危険物申告書の作成についての実習を含む訓練を行い、適切な知識を習得する。

対象者：Infectious Substance(Category A および Category B)に該当する病原体を海外へ輸送する者及び病原体の海外からの受け入れにかかわる者、バイオセーフティ管理者、検体、病原体を取扱う者、その他輸送に関連する業務を行う者

コース概略

1. 講義

危険物輸送総論

感染性材料は、危険物として分類されており、危険物輸送規則で規制されている。危険物の取り扱いについては、製造から加工、貯蔵、輸送、消費、廃棄に至るまで広範かつ様々な規制があるが、その中で輸送に関する部分のかつ航空輸送規則について説明する。

危険物の航空輸送規則の全体像を理解していただくため、規則の根拠法、規則の適用、危険物の分類ならびに規則全般の骨格を総論として説明する。

航空危険物輸送

感染性材料に的をしぼり下記についての実務レベルの規則概要を説明する。

- ・ 危険物としての定義
- ・ 分類基準
- ・ 国連正式輸送品目名の割り当て
- ・ 感染性材料の種別毎の規定
(検体、廃棄物、生物由来品、遺伝子組み換え生物、感染した動物)
- ・ 適用除外
- ・ 取り扱い要件

(許容量、包装要件、輸送容器、表示、ラベル、書類)

尚、輸送容器と梱包方法及び危険物申告書の書き方は、概要レベルとする。

- ・ 手荷物としての規制
- ・ 郵便としての規制

2. 実習

病原体輸送の航空輸送に関して定められている IATA (国際航空運送協会) Dangerous Goods Regulations (危険物規則書) [Division 6.2 Infectious Substances (区分 6.2 病気を移しやすい物質)] への対応を、実習形式で説明する。

輸送容器と梱包、マーキング、ラベリング

病原体輸送時に使用する輸送容器を紹介し、それらを用いて梱包の実習を行う。(参加者に実際にドライアイスを用いての凍結サンプル輸送用の梱包を行っていただく予定です。) あわせて、輸送容器への必要事項の記載、ラベルの貼付等の実習も行います。

危険物申告書の書き方

病原体輸送時に航空会社に提出する危険物申告書 (Shipper's Declaration for Dangerous Goods) の作成を実際に行います。

Reset Form SHIPPER'S DECLARATION FOR DANGEROUS GOODS

Shipper: _____ Air Forward To: _____
Page: _____ of _____ Pages
Shipper Reference Number: _____ (optional)

Commodity: _____ 

This consignment and signed declaration must be forwarded to the carrier(s).

TRANSPORT DETAILS

The consignee within this declaration is intended for: _____ Airport/Station: _____

PRESENCE OF CARBON DIOXIDE SOLID CARBON DIOXIDE

Special Destination: _____ **Signature** _____ (Print name)
NON-REACTIVE INORGANIC

NATURE AND QUANTITY OF DANGEROUS GOODS

UN or ID No.	Dangerous Goods Identification		Class or Division (Substance Name)	Pack. (eg. Drum)	Quantity and type of packing	Packing code	Authorization
	Proper Shipping Name	Class or Division					

Additional Shipping Information
24 Hour emergency Contact Number: _____

I hereby declare that the contents of this consignment are fully and accurately described above by the proper shipping name, and are packaged, packaged, marked and labeled in accordance with the applicable international and national governmental regulations. I declare that all of the applicable air transport requirements have been met.

Name/Title of Shipper: _____
Place and Date: _____
Signature: _____

3. 講師

丸尾 進 航空危険物安全輸送協会
市村 哲也 ワールド・クウリアー

4. 展示

亀井 範雄 家田貿易

5. 配布資料

- (1) 講義、実習テキスト(パワーポイント)
- (2) 感染性物質の輸送規則に関するガイダンス(WHO)和訳
- (3) その他

参考：IATA危険物規則書

申し込み方法

参加希望者は11月2日(木)までに下記連絡先へ氏名(ふりがな)、所属機関名、部署、役職、連絡先(e-mail アドレス、住所、電話番号、ファックス番号)をご連絡ください。

連絡先(コース責任者)

国立感染症研究所バイオセーフティ管理室

杉山 和良

〒162-8640 新宿区戸山1丁目23番地1号

TEL 03-5285-1111 FAX 03-5285-1184

E-mail ksugi@nih.go.jp

学会事務局： 国立感染症研究所バイオセーフティ管理室内

〒162-8640 新宿区戸山1丁目23番地1号

TEL 03-5285-1111 FAX 03-5285-1184

E-mail ksugi@nih.go.jp

www.nih.go.jp/niid/meetings/jbsa/gakkaiannai.html